



平成23年2月28日

卓話 『夢を分かち合う喜びが時代をつくる』

株式会社今田美奈子食卓芸術サロン

代表取締役社長

今田 美奈子 様

皆さま御機嫌よう。お菓子という小さなものに振り向きながら35年続けております。私の少女時代は惨憺たるもので、6歳のときの高熱により歩けない状態でしたが、母は人間は知性だからと言って慰めてくれました。大きくなってごく普通になり、結婚して娘と息子もできました。

1971年、私の運命が変わります。スイスの国立の学校が日本と友好関係を結ぶために日本のお菓子屋さんを呼ぶという話があり、私も連れていってもらうことになりました。これが洋菓子の世界を見た始めですが、そこで素晴らしい発見をしました。お菓子というのは必ず宴席があって、国際交流もビジネスも全部最後はお食事で交流する。それで心が繋がるわけで、疲れた心を甘味で癒すのが洋菓子の役目。そういう話を聞いたんです。西洋の伝統は、王朝が文化を作って、それがみんなのものになった。同じ形と名前でも継承されるのが文化だという母の話もあって、私も日本のお嬢様たちにそれを伝えたいと思い、帰ってから「ぶきっちゃんにも作れるケーキとクッキー」という本を出しました。それはベストセラーになり、それから今までに60冊ぐらい本を出しました。

次の大きな出会いはベルサイユ宮殿です。宮殿にはプチトリアン、ベルバラで有名な田舎屋があります。小さな可愛いお家のミニチュアの村落で、マリーアントワネットが最後に楽しんだと言われるところです。農家のひなびた生活、大自然の懐に抱かれる小川の風景、これを彼女はものすごいお金をかけて作った。それが財政破綻に導きます。王妃は育ちが良

すぎて人の気持ちは読めない。でも純粋に美は知っています。本物に囲まれて育つと最後に無駄を取って簡素なかわいいものに到達する。それで「貴婦人が愛したお菓子」などの本を出しました。これがまた売れて、私の教室には本当に大勢の生徒さんがいらした。そのとき、もうお菓子を作るだけじゃなくて、それをどんな器に盛ってどうサービスするか、そして建物、室内のトータルが文化の伝承には必要だということを知りました。

フランスの小さなお城を購入し、生徒さんたちを連れて行ってフランス人講師を呼び、貴族をもてなしたりする、実体験のようなことをしました。そのお城は非常に古く、亀裂が入って危なくなって手放したんですが、買った当初、フランスの一流の修復家に頼んでアントワネットの時代と同じものを揃えたら何億では済まなくなっちゃって、私は財産を全部つぎ込んだんです。そのお金は戻って来ませんが、テーブルアートの分野で初めて芸術文化勲章をフランス政府からいただき、シラクさんからもマダム今田はフランス人以上にフランスを理解しているという言葉いただきました。

波乱万丈ですが、命あることがありがたいという出発点を神様が最初に与えてくださったことで、元気で生きてこれた。それが私の人生だと思います。お聞きくださいましてありがとうございました。

